

聖衆來迎山禪林寺永觀堂は南禪寺の北に隣てあり、浄土宗にして西山流なり。本堂の阿弥陀如来を顧本尊と号す、長三尺余の立像なり。当寺は旧清和天皇の勅願所として、真紹僧都の草創なり。又中興の開基永觀律師、永保二年二月十五日晨朝、衆僧ともに行堂の念仏声をおしませず、信感つねならずして乾の方にてしばらく躊躇せり。本尊檀よりおり給ひて、永觀おそしと顧命し給ふ。律師感涙を流し、是ぞ末世の衆生を撰取引接の証なりとて、自その由縁を記されたり。「今当寺にあり、律師は花山院の皇子深觀僧都の弟子なり、南都東大寺の勸進職に補せられ、四十二歳にして此地に閑居し、ひたぶる浄土を願ひて往生十因等の書を著せり」祖師堂には善導大師（自作なり）円光大師西山上人の三影を安置す。「当山はむかし真言宗なり。池ノ大納言頼盛卿の息静遍此所に住して、源空の滅後撰撰集を披閱して、一向専修の義を立、源頼朝卿ふかくこれに帰依し給ひて、武運長久の為に大般若経を転読す、其例今にあり」経蔵の額法海の二字は黄檗高泉の筆なり。聖衆來迎の松は堂前にあり、ある夜四方に異香薫じ音楽聞えて、菩薩來集の粧ひ、此松の枝にありしとなり。「山号は此謂によるなり」中門の左に諸化の學校あり、会下と称す。「講堂には甘露殿といふ額あり」